

平成 31 年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和元年 10月3日

佐久市教育委員会

(1) 調査の概要

- (1) 調査日 平成31年4月18日(木)
- (2) 調査対象 小学校6年生、中学校3年生、学校
- (3) 調査内容
 - ① 児童生徒に対する調査(小学校6年・中学校3年)

- 教科に関する調査：国語、算数(数学)、英語

※今年度より新学習指導要領の考え方に即し、従来の「知識に関する問題」、「活用に関する問題」に区分した扱いを見直し一体的に調査問題を改定された。また、「英語」については、「理科」同様3年に一度の調査としている。

- 学習意欲、学習環境等に関する調査(児童・生徒質問紙)

- ② 学校に対する調査(学校質問紙)

(2) 教科に関する調査 ◎平均正答率、①領域や観点から、②正答分布状況、③詳細の状況・課題

(1) 小学校国語

- ◎ 全国と比べ、「ほぼ同じ」である。

- ① 領域別で「伝統的言語文化と国語の特質に関する事項」でやや下回る。観点では、「言語の知識・理解・技能」面がやや下回っている。
- ② [正答分布状況] 上位にかけて多い分布。
- ③ 「言語の知識・理解・技能」で、学年に応じた漢字を正しく使うことや、文章構成に関わる接続詞の活用問題に誤答が見られる。文の内容を的確に理解する「読解力」や「文章を書く力」を更に高めていきたい。

(2) 小学校算数

- ◎ 全国と比べ、「ほぼ同じ」である。

- ① 領域別においても全国平均とほぼ同等ではあるが、細かな領域で見ると「量と測定」「数量関係」の正答率が低い。
- ② [正答分布状況] 上位にかけて多い分布。
- ③ 資料や表から読み取り解答する問題や数学的思考を用いて筋道を立て説明する記述問題に課題が見られる。

(3) 中学校国語

- ◎ 全国と比べ、「やや下回る」。

- ① 領域では「書くこと」は全国平均とほぼ同等であるが、「読むこと」と「国語の特質に関する事項」について正答率が低い。
- ② [正答分布状況] 上位に多い分布である。
- ③ 出題された説明文やまとまった文を限られた時間の中で読み、その内容に即した設問に答える問題の正答率が低い。文章を要約し内容を把握する等の「読解力」に課題を感じる。

(4) 中学校数学

- ◎ 全国と比べ、「やや下回る」。

- ① 今年の出題問題の傾向は「活用」に重きを置いた出題であり、昨年のB問題での結果と同様に、領域で「関数」「図形」、観点で「数学的な見方・考え方」を用いて「記述」する問題の正答率が低い。

- ② 「正答分布状況」正答数が3～5問の生徒が増えてきており、下・中・上位がならされた分布。
- ③ 「数と式」等の数学的計算技能は高い。「関数」を中心とした資料や表・グラフの読み取りから答えを求める力が弱い。また、「図形」領域の結論が成り立つために数学的な考え方をを用いて説明する問いにも課題が見られる。

(5) 中学校英語

◎ 全国と比べ、「やや下回る」

- ① 「聞く」領域は全国平均とほぼ同等である。しかし、「読むこと」については「やや下回り」、「書くこと」については「下回る」結果である。
- ② 「正答分布状況」中位が膨らむ分布である。
- ③ 今回の出題は、英語を聞き取り設問に答える問題、英文を読んで設問に答える問題とで構成されている。「聞く」領域は、小学校の英語活動から始まり中学での更なる学習の積み重ねの成果が見られる。「表現の能力」の観点で、ある程度まとまった量の英文の読み取りや語や文法事項等を理解して正しく英文を作ることに課題が見られる。文章の内容を理解する「読みこなす力」、基本的な語や文法を理解して英文を「書く力」を今後高める必要が求められる。

(3) 学習状況等に関する調査

回答結果に国や県と著しく異なったものはないが、自校の子どもの生活実態としてわずかな特徴を大事に扱いたい。

(1) 小学校6年

- ① 「将来の夢や目標を持っていますか」に対し、84%の児童が「ある」と回答。目標を持った生活を目指している。
- ② 「物事を最後までやり遂げうれしかったことがありますか」に95%の児童が「ある」と回答、成功感や満足感体験をしている姿が伺える。
- ③ 「学校に行くのは楽しいと思いますか」に17%程の児童が良い回答をしていないことが気になる。
- ④ 「授業以外で普段、1日当たりどれくらい読書に費やす時間があるか。」という質問に、「30分もない」と回答している児童が全体の約57%。昨年度より7%増加。ここ数年徐々に増加傾向、読書離れが深刻化。また、図書館（校内・公共を含め）利用度では「年に数回行く程度」と回答した児童は50%である。
- ⑤ 「今までで、自分の考えを発表する機会で、自分の考えがうまく相手に伝わるよう、話しの組立などを工夫して発表していたと思いますか」について、38%の児童が「できていない」と回答している。

(2) 中学校3年

- ① 「将来の夢や目標を持っていますか」に対し、73%の生徒が「ある」と回答している。
- ② 「家で勉強をあまり、または、全くしていない」と回答している生徒は43%。一日の家庭学習（塾、家庭教師と関わる時間も含む）の時間では、「1～2時間以内」が最も多く43%。「1時間以内」は30%であった。この時期は学校からの課題でも出されないかぎり家庭学習に取り組まない生徒が多い現状。
- ③ 読書について、普段1日当たり「30分以内」「やほとんどしていない」と回答する生徒は、昨年と同様全体の66%である。
- ④ 数学への質問で、「数学は苦手（35%）」。「数学は必要（88%）」・「授業内容も分かる（76%）」・「授業内容があまり分からない（24%）」。「1/4の生徒が理解困難を自覚、このような生徒たちへの支えをしていく取組の検討が大切。
- ⑤ 「英語の勉強が好きですか。」と言う問いに、「好き（31%）」、「どちら言えば好き（29%）」、「どちらかと言えば嫌い（25%）」、「嫌い（15%）」。「これは、「英語の授業が分かりますか。」と言う質問結果とほぼ同様の数値である。興味・関心を高める授業工夫＝わかりやすい授業。このような更なる工夫や改善が求められる。

(4) 改善の方向

各校、学力の課題は異なるので、以下に示す市全体傾向を基にした『授業改善の方向』はあくまで参考として、昨年度実施している CRT 検査から考察される課題も含め、子どもたちにどんな課題が明らかになりたい。そして、その要因を探る中で日常指導の何を見返し改善していくべきかを的確に捉え、「学力の向上」につながる指導改善や「豊かな人間性を育む」取り組みへつなげていただきたい。

(1) 【国語】「読むこと」「読解力」に課題が見られる。考えをまとめる力として「書くこと」の学習も含めた取り組みで考えたい。そこで、

- ① 物語や説明文、報道文など多様な文を扱う中で、筆者の意図を考え内容を読みとる学習を深め、学年に応じた読解力を高める指導を進める。その際、黙読・音読が適切に行えるか、決められた時間内で的確に読み取りができるか、内容を要約してまとめることができるか等、段階を追った目標を考え積み上げ指導を大切にしていきたい。
- ② 教師が図書館は文学書籍の言葉に触れ表現語彙を増やす場と同時に、資料や情報を得る場・自らの課題解決の場としても活用できることを活用しながら教え、読書に親しむ習慣を高めたい。
- ③ 「国語の特質に関する事項」にもあげられる「漢字が書ける」について、語句の意味を十分に理解・学ばせ、広く活用できる力を育てたい。

(2) 【算数・数学】計算能力は高いが、資料や表・グラフを読み取り、式や値を求めることや数学的な考え方をを用いて説明する等の力に課題が見られる。そこで、

- ① 結論に至る筋道や根拠となる定理・仕組みを丁寧に理解できる授業。また、仲間の多様な考えや説明を聞く・理解する学習活動の両者の学習活動を大切に授業づくりの工夫を図りたい。
- ② 子どもが理解不足・つまづきを示している単元を洗い出し指導法の再検討を図る。そのためにも教師主導型にならぬよう子どもの思いや姿・到達結果を大切に指導計画を立て改善に努める。

(3) 【英語】語や文法事項などを理解し正しい英文を書く力、まとまりのある文章を読んで内容を理解する力に課題が見られた。そこで、

- ① ALT の活用を通じた豊かなコミュニケーション能力を培う学習を一層充実させると共に、まとまった英文を読み込みその内容を理解する学習や、語句や基本的な文法の習得を図る学習の工夫。
- ② 生徒が英語で発信し表現する活動は、これからも継続的に取り組ませていきたい。
- ③ 小学校英語活動・学習で培ってきた「興味・関心」を大切に、中学校での更なる学習内容を学ぶ中で、一層「関心・意欲」を高めていかれるよう日々の授業づくりの工夫に努めたい。

(4) 【全体考察】

- ① どの子どもも安心して自分の思いが語れ、学び合う楽しさが味わえる学習集団・学級づくり・人間関係づくりに努める。そのためにも、ひとり一人の「社会性」育てることを大切にしたい。
- ② 子どもたちが学びに対して一層「自信や意欲」「興味・関心」を高められるよう、個々の子どもたちの習得状況や心情等を丁寧に見取り、全員が理解できる学習体制を大切に取り組んでいく。
- ③ 家庭と協働し規則正しい生活リズムや家庭学習の習慣化を図る生活環境づくりに努める。